明石医療センター麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行っている.患者安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かして，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担っている.

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

専門研修基幹施設である明石医療センター（以下AMC）を中心とし，既に連携実績のある各専門研修連携施設と密接に協力して，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの目標を達成できるよう教育を提供する．基幹施設では，豊富な心臓大血管外科症例を通して日本ならびに米国の周術期経食道心エコー資格認定の取得も目指す．当院のみでは脳神経外科・小児外科麻酔の領域が不十分となるため，連携施設で積極的に研修をして十分な知識と技術を備えた専門医を目指す.

研修連携施設の紹介を簡単にすると，千船病院ではハイリスク妊娠分娩，高槻病院では総合周産期母子医療センターを備える新生児を含む小児外科麻酔症例，大西脳神経外科病院では脳神経外科症例全般に関するトレーニングを行う.また，小児麻酔・脳神経外科を中心に様々な症例を経験する事ができる大阪市立総合医療センター，手術症例のみならず集中治療や救急部門で研修を行える神戸市立医療センター中央市民病院，救急部門に特化した兵庫県立加古川医療センター救急救命センター，ペインクリニック・緩和ケア領域を大久保病院でトレーニングする事も可能である．大学病院での研修では，優れた臨床医となるために不可欠な臨床に対する科学的なアプローチを併せて学ぶ.

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

本研修プログラムでは，地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし，研修終了後は，兵庫県の地域医療の担い手として県内の希望する施設で就業が可能となる．

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち1年～1年半，後半2年間のうち1年～1年半は専門研修基幹施設および大西脳神経外科病院で研修を行う．
- 2年目～3年目の期間中に関連病院A及びB病院で研修を行う．
- 研修期間中に集中治療科及び救急科での研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，綿密なコミュニケーションを取りながらローテーションを構築する．

研修実施計画例

年間ローテーション表（※プログラムの一例）

	1年目	2年目	3年目	4年目
#1	AMC，大西脳神経外科病院	専門研修連携施設A	前半：専門研修連携施設A　後半：AMC	AMC
#2	AMC	前半：AMC 後半：連携施設B	専門研修関連施設A	AMC，大西脳神経外科病院

週間予定表

（※プログラムの一例）

A	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み	休み
当直		当直					

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

社会医療法人愛仁会　明石医療センター

研修プログラム統括責任者：多田羅康章

専門研修指導医：岡本　健志（麻酔指導医）
多田羅　康章（麻酔指導医，集中治療専門医）
藤島　佳世子（麻酔指導医）
松尾　佳代子（麻酔指導医，産科麻酔）
濱﨑　豊（麻酔指導医,集中治療専門医，心血麻酔専門医）
山崎　翔太（麻酔指導医，心臓麻酔専門医）
米田　優美（集中治療専門医，麻酔専門医）
西　進介（麻酔専門医）

麻酔科認定病院番号：1166

特徴：兵庫県東播磨医療圏で急性期医療を行っている．全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどを併用した管理、脊髄クモ膜下麻酔を積極的に行って，全身管理と区域麻酔の技術習得を目指します．また，心臓大血管外科症例を通してJB-POTならびに米国周術期経食道心エコー資格の取得や，集中治療・産科麻酔（labor analgesia）領域の研修も可能です．

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
3460	5	370	346	154	0

② **専門研修連携施設**

社会医療法人愛仁会千船病院

研修実施責任者：角　千里

専門研修指導医：角　千里（産科麻酔）
星野　和夫（麻酔）
嘉山　邦仁（麻酔）
大山　泰幸（麻酔）
大嶋　圭一（麻酔）
平塚　剛（麻酔）
菅野　睦（麻酔）
渡邉　真理子（麻酔）
戸尾　まゆみ（麻酔）

麻酔科認定病院番号：770

特徴：初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる308床の地域の総合病院ですので、大病院では経験しにくいcommon　diseaseの待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており、麻酔科医としての地力を鍛えることができます。2025年度麻酔科管理件数は4,473件/年、うち全身麻酔は2,233件/年でした。地域周産期母子医療センター、MFICU（6床)、NICU（15床)、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は2,600件/年と大阪府随一ですので、一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667件/年）や無痛分娩（1,100件/年）等の産科麻酔を経験することができます。無痛分娩は麻酔科医が24時間対応し、カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています。6ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています。また、減量・糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
4473	28	667	0	11	26

社会医療法人愛仁会高槻病院

社会医療法人愛仁会高槻病院
研修実施責任者：三宅隆一郎
専門研修指導医：三宅隆一郎（麻酔，心臓血管麻酔）
中島正順（麻酔）
土居ゆみ（小児麻酔，小児集中治療）
入澤友美（麻酔，区域麻酔，集中治療）
西田隆也（麻酔，集中治療）
棚田和子（麻酔，心臓血管麻酔）

認定病院番号：829
特徴：大阪北摂地域で新生児から高齢者まで幅広い層に急性期医療を提供している．総合周産期母子医療センターを備えているため産科・小児（新生児含む）麻酔を豊富に経験することができる．また緊急手術の麻酔症例も多く,心臓血管外科や脳神経外科等も含めた様々な手術の麻酔を研修することが可能である．

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
3595	268	154	183	99	103

神戸大学医学部附属病院

施設責任者：小幡　典彦

専門研修指導医：小幡　典彦（麻酔）
野村　有紀（麻酔、ペインクリニック）
大井　まゆ（麻酔、小児）
巻野　将平（麻酔、集中治療）
法華　真衣（麻酔、心臓血管）
末原　知美（麻酔）
牛尾　将洋（麻酔、集中治療）
上野　喬平（麻酔、集中治療）
岡田　卓也（麻酔、心臓血管）
藤本　大地（麻酔、集中治療）
武部　佐和子（麻酔、心臓血管）
吉田　卓矢（麻酔）

専門医：廣瀬　徹也（麻酔）
岡田　有理（麻酔）
白川　尚隆（麻酔）
杉野　太亮（麻酔）
坪井　ちづ（麻酔）
西原　侑紀（麻酔）
田中　明子（麻酔）
光井　誠子（麻酔）
阿瀬井　宏佑（麻酔）
中村　友季子（麻酔）
原田　みどり（麻酔）
中山　莉子（麻酔）
原　翔平（麻酔）
井関　将彦（麻酔）
中井　愛理（麻酔）
宮崎　純志（麻酔）
森本　優佳子（麻酔）
南　綾乃（麻酔）

内山　福美（麻酔）
森　梓（麻酔）
志賀　萌（麻酔）

麻酔科認定病院番号：29

特徴：大学病院であることから高度専門・先進医療を提供している。多種多彩な症例の麻酔管理を経験できる。また、集中治療やペインクリニック分野においても十分な研修を行うことが可能である。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
7379	192	248	493	426	235

兵庫医科大学病院（以下、兵庫医大病院）

研修プログラム統括責任者：植木 隆介

専門研修指導医：狩谷 伸享 （麻酔，産科麻酔，緩和医療）
髙雄　由美子（麻酔，ペインクリニック，疼痛治療全般）
植木　隆介（麻酔，心臓麻酔，術後疼痛）
竹田　健太（麻酔，集中治療）
井手　岳　（麻酔，集中治療）
奥谷　博愛（麻酔，ペインクリニック，心臓麻酔）
田口　真奈（麻酔，集中治療）
藤本　幸一（麻酔，集中治療）
岡本　拓磨（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔，集中治療）
緒方　洪貴（麻酔，ペインクリニック）
佐藤　史弥（麻酔，ペインクリニック，小児麻酔）
宮本　和徳（麻酔，小児麻酔，ペインクリニック）
大場　祥平（麻酔、小児麻酔）
城戸　茜　（麻酔，集中治療）
尾下　幸子（麻酔，心臓麻酔）
濱中　優花（麻酔一般）
池垣　友康（麻酔，ペインクリニック，心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号　85

特徴：麻酔科管理症例は緊急症例を除き、全例麻酔科術前外来受診を行う。安全かつ効率的な手術室運営を構築し、麻酔科管理症例数は全国でもトップレベルである。また、大学病院の特性から、極めてまれな症例、ハイリスク症例など特殊な麻

酔管理も行われ、貴重な症例は学会で報告し、臨床麻酔のレベルアップに貢献している。基礎的な手技ひとつひとつを丁寧に指導し、特に気道確保のトレーニングは豊富なデバイス資源を元にプロならではの領域を目指す。各科との協力体制も良好で、手術室の支柱としてコミュニケーション能力には定評がある。高機能シミュレーターによるトレーニングも可能である。また、大学院博士課程専攻、ペイン，緩和ケア、集中治療のローテーションなどのプログラムを構築することができ、各専攻医の目標に沿った研修を計画する。育児中の女性医師の教育支援体制を構築中であり、麻酔科医としての成長と両立する道を探る。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
6124	193	145	287	482	318

順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下，順天堂医院）

研修実施責任者：川越いづみ

専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
安藤　望（麻酔全般・小児麻酔）
阿部まり子（麻酔全般・小児麻酔）
福田征孝（麻酔全般）
豊田有加里（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
林　愛　（麻酔全般）
藤野隆史（麻酔全般）
岡田尚子（麻酔全般・産科麻酔）
門倉ゆみ子（麻酔全般・産科麻酔）

千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
原　厚子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
武田泰子（ペインクリニック）
太田　浄（ペインクリニック）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
三高千惠子（集中治療）
近江禎子（麻酔全般・産科麻酔）

専門医：稲田美香子（麻酔全般）
山口　愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
池田麻里絵（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
岩佐　美（麻酔全般）
米本周平（麻酔全般）
森　悠子（麻酔全般）
多賀慶子（麻酔全般）
室谷修平（麻酔全般）
廣瀬友基（麻酔全般）
箕浦真奈美（麻酔全般・産科麻酔）

麻酔科認定病院番号　12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
12304	949	282	885	777	483

大阪市立総合医療センター

研修実施責任者：山田徳洪

専門研修指導医：山田　徳洪（麻酔）
池田　慈子（麻酔）
嵐　大輔（麻酔）
上田　真美（麻酔）
岡本　なおみ（麻酔）
小林　晶子（麻酔）
嶋津　和宏（麻酔、集中治療）
四宮　沙里（麻酔、集中治療）
片岡　恵里佳（麻酔）
藤間　凡未（麻酔）
中谷　誠二（麻酔）
中新　恭平（集中治療）

麻酔科認定病院番号：686

特徴：地域基幹病院、大学附属病院と連携し、麻酔診療と集中治療を組み合わせた研修を提供し周術期全般を見渡せる高水準な麻酔科専門医を育成します。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
9836	1387	540	232	410	292

神戸市立医療センター中央市民病院

研修実施責任者：美馬　裕之

専門研修指導医：美馬　裕之（麻酔、集中治療）
山崎　和夫（麻酔、集中治療）
宮脇　郁子（麻酔）
下薗　崇宏（麻酔、集中治療）
柚木　一馬（麻酔、集中治療）
野住　雄策（麻酔、集中治療）
桂　欣宏（麻酔、集中治療）

認定病院番号：　217

特徴：神戸市民病院機構の基幹病院として高度・先進医療に取り組むとともに救急救命センターとして24時間体制で1から3次まで広範にわたる救急患者に対応している。そのた

め心大血管手術、臓器移植手術、緊急手術など様々な状況で多種多彩な麻酔管理を経験できる。また、集中治療部を麻酔科が主体となって管理しているため大手術後や敗血症性ショック等の重症患者管理を研修することができる。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
6876	48	234	472	352	133

特定医療法人誠仁会大久保病院

研修実施責任者：裏辻　悠子

専門研修指導医：裏辻　悠子

井谷　基

金子　宏美

麻酔科認定病院番号: 1754

特徴：東播磨地域で、整形外科、脳神経外科、外科、婦人科の症例を経験できますが、特に整形外科は脊椎外科、人工関節、肩手術が豊富で、今年度からは婦人科手術も増加の見込みです。ペインクリニックも併設しており、専門医２名でペインクリニック認定病院として近隣病院からの各種神経ブロック依頼も受けておりますが、最近は癌性疼痛も増えてきています。加えて緩和ケア病棟もあるため、癌性疼痛の管理も外来から入院後まで経過を見ながら、麻薬管理や各種神経ブロックを経験することが可能です。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
1081	0	0	0	0	0

医療法人社団英明会　大西脳神経外科病院（以下，大西脳神経外科病院）

研修実施責任者：鈴木　夕希子

専門研修指導医：鈴木　夕希子（麻酔）

岡田　幸作（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1648

特徴：意識下開頭術を含む，非常に多くの脳外科症例全般を経験できる.

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
424	0	0	0	0	160

兵庫県立加古川医療センター

研修実施責任者：秋山　智幹

専門研修指導医：秋山　智幹（麻酔）
高橋　亨子（麻酔）
佐野　秀（麻酔、救急、集中治療）
田原　慎太郎（麻酔、救急、集中治療）

麻酔科認定病院番号：204

特徴：救命救急センターを擁し、県の災害拠点病院、ドクターヘリ基地病院である。このため多種多様な２次、３次救急症例を引き受けている（産科を除く）。急性腹症も多彩な症例を経験できる。また、ドクターヘリ搬入の最重症の外傷症例では、多発外傷の Acute Care Surgery をはじめ、頭部外傷、脊髄損傷等の麻酔を経験できる。急性期脱出後は外科、泌尿器科、整形外科、形成外科等による集約的な修復・再建治療の麻酔を経験できる。全身熱傷症例の麻酔も経験できる。脊椎外科センターでは脊椎手術の症例も多数あり、また泌尿器科ではロボット支援下の前立腺全摘術、腎部分切除術、腎摘出手術等の症例の麻酔を経験できる。

2025 年度実績

麻酔科管理症例数	小児(6 歳未満)	帝王切開の麻酔	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科の麻酔
2056	0	0	0	0	27

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026 年 9 月ごろ予定）志望の研修プログラムに応募する．

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，明石医療センターwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

明石医療センター管理科　窪田　真弓
〒674-0063　兵庫県明石市大久保町八木743-33　明石医療センター管理科
TEL 078-936-1101
E-mail：amckensyu@aijinkai-group.com
Website ：www.amc1.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバック

を行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- ２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せ

られた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める.

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院として当センター，大西脳神経外科病院また連携施設の高槻病院が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.